

編集兼発行者：神奈川県糖尿病協会

しんとう



発行所：神奈川県糖尿病協会 TEL 045-212-0668 FAX 045-227-8173
印刷所：株式会社クリエイティブ

「『しんとう』第100号に寄せて」



神奈川県糖尿病協会会长

田 村 泰 敏

神奈川県糖尿病協会が1974年に発足し、その翌年の10月に会報第1号が発刊されました。当時の加入施設は14ヶ所、会員数も1,000名位でした。

第100号を発刊するにあたり一言ご挨拶を申し上げます。この34年の間には様々なことがありました。現在67ヶ所の友の会と3,000名の会員がこの会報とともに協会と連絡をとりながら、日常の生活を送っていると存じます。会報の名称も、創立20周年を機に様々な願いをこめて「しんとう」に変え、堅いイメージを少なくして参りました。

糖尿病の対策においても昨年12月21日には国連決議が出され、全世界がこの病気に向かい合い、それぞれの国が新しい対策を打ち出し真剣に取り組み始めました。わが国も、全国の医師会のご協力を頂き、手を取り合って、糖尿病協会と共に国をあげての方針が次々と打ち出されています。全国の新聞やテレビ等で糖尿病の文字が無い日の方が珍しい状態です。

今、「しんとう」第100号を発刊するにあたり、お読み頂いている会員の皆様を始め、ご協力を頂いている医師、コメディカルスタッフ、賛助会員の企業の方々に感謝の意を表します。今後も神糖協は、会の目的である『糖尿病の正しい知識の普及と習得』に皆様と共に努力して参りますことをお誓いして、会報第100号記念号発行にあたりご挨拶と致します。



「しんとう」編集委員長・
横浜市立大学附属
市民総合医療センター

岡 村 淳

私たちの会報「しんとう」が、ついに第100号を迎えました。これまでの多くの先輩方の努力の積み重ねが今日に至ったものと感謝でいっぱいです。しかし私が神糖協副会長、編集委員会委員長という職にありながら、このところ以前のような年4回の発行が叶わず、慙愧に耐えません。とはいえ今後も、「さかえ」、「とうゆうニュース」とは異なった切り口で、神奈川県独自の会報を地道に発行していきたいと存じます。昨今、糖尿病患者さんの増加で、一般の方やマスコミにも糖尿病に関心が高まっています。そのような状況の中で、身近な医療スタッフや患者さんからのメッセージを届けるのに、絶好な媒体かと思います。「紙面は小さくても中身は濃い」といわれ

る紙面にしたいと思っています。これからも200号、300号を目指して、さらに中身を充実させていく所存ですので、会員の皆様の絶大なる支援をお願いいたします。



齊 藤 正 淳

「しんとう」も第100号になりましたか…。第1号からかかわりっていた私にとって感無量ですねえ。

昭和40年代中頃、各地域の中核病院で糖尿病を担当していた我々は、患者さんの治療はまず教育に始まると思い、社会や病院のサポートもなく各々の病院で（私は平塚市民病院）患者会を作り、手作りの患者教育を進めていました。他処がどうやってい

るかも分からず、自分で考えながらポチポチとやっていましたが、そのモヤモヤに火をつけて下さったのが、当時藤沢市民病院にいらした高邑先生でした。激に応じて一堂に会した川崎市立川崎病院、平塚市立病院、小田原市立病院、済生会病院、北里大学病院、横浜中央病院、横須賀共済病院、臨港病院等の若い医師が作り上げたのが神糖協です。金

よりよい糖尿病ケアを目指して

ノボ・ノルディスクは、すぐれた医薬品の提供だけでなく、患者さんや医療従事者のみなさんの声にも耳を傾け、糖尿病ケアのさらなる改善を目指していきます。
よりよい未来のために、私たちはもっともっとお役に立ちたいと考えています。

**changing
the way
we care for
diabetes**

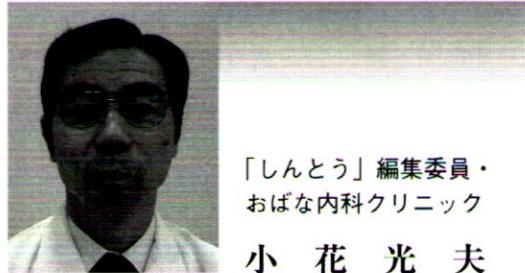


ノボ・ノルディスク ファーマ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
電話(03) 6266-1000(代表) FAX(03) 6266-1800
www.novonordisk.co.jp



も無いし、力も無い。無い無いづくしの中で立ち上げました。編集委員になった高邑(藤沢)、塩谷(港湾)、塩田(癌センター)、齊藤(平塚)、平尾(衣笠)は原稿書きと併行して金作りにも専念しました。各ページの下1行に広告をとり、その広告代を会誌の費用に充てるのです。表紙下と裏表紙下は高額として、付き合いのある検査メーカーや正しい製品を出している製薬会社を専任としてお願いし、経済的自立を確保しました。私も十社あまりのスポンサーの話をつけましたが、これがその後100号続く基礎になったと思います。編集会議が終わったあと、野毛のあたりの喫茶店でくつろぎながら会話し、「あっ、そのおたくのやり方使わして貰うよ」と自分の患者会の向上に努めたのも、疲れを知らない30代だったからでしょうか。ですから第1号の表紙は今でも目をつぶれば思い出します。右上から神奈川県糖尿病協会々報とあり、その左に眼鏡をかけた初代会長さんの顔がありました。初回に関係した先生方は、それぞれ各地で開業なさり、糖尿病教育の普及に活躍しておられます。私は今でも「しんとう」の編集を通じて勉強しあった若かりし諸先生方との交流を宝物の様に大事な思い出にしています。

おめでとう。



「しんとう」編集委員・
おばな内科クリニック

小花光夫

神奈川県糖尿病協会の会報である「しんとう」が記念すべき第100号を迎えたことでまことに感慨に耐えません。以前の「神奈川県糖尿病協会会報」ではあまりにもありのままでそっけないということから、この「しんとう」という名称に変更されたという経緯をご存知の方もすでに少なくなっているのではないでしょうか。私は昭和51年に川崎市立川崎病院内科に入職しましたがその当時の藤森一平病院長が私に糖尿病外来を担当してほしいと指示されたことが私と糖尿病との深い関わりの始まりでした。私の恩師である藤森一平先生は高邑裕太郎先生、齊藤正淳先生、塩谷淑子先生、故大迫六郎先生などとともに神奈川県糖尿病協会の生みの親の一人であり、川崎市立川崎病院の中には独自の糖尿病患者会がすでに昭和38年から設立されていましたが、神奈川県内の合計11の医療機関の患者会をもって770名の会員で神奈川県糖尿病協会が

糖尿病患者さんと医療スタッフのための情報サイト

糖尿病ネットワーク

糖尿病に関わるすべての人に、幅広い情報を提供する総合情報サイトです。

<http://www.dm-net.co.jp/>

お問い合わせ(株)創新社 東京都港区西新橋2-8-11 [E-mail] dm-net@ba2.so-net.ne.jp [TEL] 03-5521-2881 [FAX] 03-5521-2883

糖尿病に関するさまざまな情報を医療スタッフ向けに整理した情報サイトです。

<http://www.dm-medical.net/>

医療スタッフのための情報サイト

糖尿病メディカルネット

昭和49年に結成されたとのことです。

神奈川県糖尿病週間の行事報告を除くと掲載記事は自然には集まらないので、編集委員会で指導医、看護師、栄養士を割り当てて記事の執筆をお願いして、かろうじて毎号の締め切りに間に合わせてきましたが、編集担当者の苦労は決して少なくありませんでした。それでも、ここに区切りの第100号をめでたく迎えたことは編集委員の一人として喜びに耐えません。当初にはなかった糖尿病療養指導士制度が立派に立ち上げられており、その方々からの積極的な寄稿が今後増えることを大いに期待しております。



「しんとう」編集委員・
おばな内科クリニック

常盤 千鶴子

神奈川県糖尿病協会は昭和49年5月、川崎市立、藤沢市立、成人病センター、港湾病院、済生会神奈川、平塚市民の医師および栄養士により設立準備がなされた。

私は転勤したばかりのため、その機会には参加できなかった。週間行事の第1回、第2回は三越のデパートの2階へつながる階

段壁面に糖尿病に関する資料を展示し、そのときから参画した。第3回目からは高島屋デパートの協力により大きいスペースを借りることが出来たため、私達はパネル作りや行事内容の打ち合わせなどのために夜遅くまで活動し、今日の基礎を作り上げた。高島屋では血糖・尿糖検査、血圧測定、医療相談、栄養相談、本の展示、医師・栄養士による講演会が執り行われ、4日間を充當した。開催に当たっては事務局を引き受けてくださった病院の担当者がパネル等の搬入を担い、閉店後のフロアが片付いてからレイアウトし、セッティングするため、夜10時を回ることもしばしばであった。

高島屋では毎年パネルを修復してくださって有難かった。この行事も既に30年余り続き、岡田屋、横浜市文化会館、ならびに桜木町前の福祉センターなどを経て今日に至っている。

当時はこの病についての世間一般の理解も乏しく、また今日ほど知識も普及していなかった時代であったゆえ、みな真剣に参加していたし、質問も予想以上に出されていた。

「しんとう」の発行も年4回編集委員が責任をもって行い、12月号には11月の週間行事内容が掲載され、ページ数が増したが、欠版もなく続けられてきた。今日、予算の関係で発行回数が減少しているのは残念であるが、今、第100号まで持続できた喜びをかみしめている。

コラム

最近は糖尿病に関する様々な情報を、インターネットを介して簡単に手に入れることができます。信頼できる良質な情報を提供しているおもなサイトをご紹介します。

- 日本糖尿病協会 : <http://www.jadce.or.jp/>
- 日本糖尿病学会 : <http://www.jds.or.jp/>
- 厚生労働省「糖尿病ホームページ」 : <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/seikatu/tounyou/>
- 健康日本21 : <http://www.kenkounippon21.gr.jp/>

神奈川糖尿病療養 指導士認定機構の紹介



療養指導委員会委員長・
松葉医院

松葉育郎

糖尿病の治療・療養は医師、コメディカルスタッフとのチーム医療を実践していかなければ十分な効果を期待できません。また、糖尿病専門医のみならず、糖尿病を診療する一般医の医療機関をはじめとして調剤薬局、保健所、介護老人保健施設などにも糖尿病療養指導に習熟したコメディカルスタッフがいれば、スムーズな診療連携が行うことができると期待されます。現在、日本糖尿病療養指導士認定機構があり、日本糖尿病療養指導士の認定試験や研修会を行っていますが、日本糖尿病療養指導士はその受験資格が限られ、薬局勤務の薬剤師や糖尿病専門医がない各施設で従事しているコメディカルには、受験の機会さえ無いのが現状です。このようなコメディカルスタッフのモチベーションや質を上げる意味でも、神奈川糖尿病療養指導士認定機構を立ち上げ、神奈川糖尿病療養指導士の認定を行うことにより、激増する糖尿病患者さんへの療養生活の改善の一翼を担うことを一つの目的として設立されました。また、神奈川糖尿病療養指導士を数多く養成していくことやその質を保証していくことも重要な役割であるため、学習機会の拡大と共に研修会等の開催に関し援助等を行っていくことにも精力的に取り組んでいます。

【設立発起団体】

神奈川糖尿病セミナー、神奈川糖尿病ネットワーク、湘南糖尿病懇話会、さがみ糖尿病カンファレンス、川崎糖尿病懇話会、やまどり糖尿病療養指導コンセンサス、ヘルスエデュケーションセンター、神奈川県糖尿病療養指導研究会、糖尿病スタッフ教育研究会

【申請資格について】

- 平成18年9月1日以降の認定機構が認めた糖尿病関連の研修会・講演会等に参加して、所定の単位を取得した者。
- 申請資格
 - a. 神奈川地域在住か神奈川地域在勤の糖尿病療養に携わる医療・福祉施設で働くもの。
 - b. 資格申請時に糖尿病療養に従事し、最低2年以上はその経験があること（自己申告で可）。
 - c. 認定機構の主催する会に、1回以上、参加すること。
 - d. 申請資格については当療養指導士認定委員会で審査。
 - e. 認定期間は5年間とする。
 - f. 取得必要単位数は20単位（初回）。

詳細は<http://www.klcde.jp/>または045-453-2411事務局までお願いいたします。

事務局だより

◆ 第12回 ウォークラリー

日 時 平成19年10月28日(日) 10時30分~16時
雨天の場合は中止

場 所 『よこはま動物園ズーラシア』横浜市旭区

集合場所 入場口前(入り口正面)

集合時間 午前10時30分

参加費用 無料(但し、現地までの交通費及び保険料200円自己負担)

◆ 第43回全国糖尿病週間 神奈川県行事

日 時 平成19年11月4日(日) 10時~16時終了予定

場 所 神奈川中小企業センター
横浜市中区尾上町5-80 TEL 045-633-5019

内 容 医療相談・歯科相談・栄養相談・血糖・血圧測定
講演会 特別講演 「歯周病について」
基調講演 「糖尿病の正しい知識と自己管理」
パネルディスカッション 看護師・栄養士・健康運動指導士
パネル・展示

◆ 調理実習

場 所 野毛地区センター 3階 調理実習室
講 師 管理栄養士 常盤千鶴子先生
日 時 毎月、開催日が異なりますので事務局にお問い合わせください
神奈川県糖尿病協会事務局 毎週水曜日
TEL 045-212-0668 FAX 045-227-8173

飲んでわかる!!「桑の葉っぱ」のすばらしさ

桑の葉茶

ミネラルたっぷり!!

こんな方におすすめします

- 健康が気になりだしている方
- 糖のとりすぎを気にされている方
- 脂質のとりすぎを気にされている方
- 肥りすぎを気にされている方



神奈川県試験研究機関との共同研究によって桑葉について数多くの成果が得られました。この成果をもとに開発された「桑の葉茶」は健康維持に欠かせないミネラル成分を豊富に含み、カルシウムはせん茶の5.3倍、鉄は5倍と高く、亜鉛、マグネシウムなどの微量元素をはじめ、血糖抑制効果のあるDNJ_α、コレステロール抑制効果のあるフラボノイドなどを豊富に含んでいます。

りはご
希望
資料を
お送
ります。

ご注文・お問い合わせは
トヨタマ健康食品株式会社

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-38-12 油蔵会館ビル5F
TEL 03-3663-0007(㈹) FAX 03-3663-0006
Home Page: <http://www.kenkoshokuhin.jp>

カロリーをコントロールする、うまい方法できました。



SOYJOY カロリーコントロール80

大豆とフルーツでおいしい80kcal。
SOYJOY カロリーコントロール80 新登場。

小麦粉不使用

小麦粉で生地をつくりました。

小麥粉を使わず大豆をまるごと粉にしているので、大豆タンパク、イソフラボン、食物繊維など、大豆の栄養素をあますところなく摂ることができます。

*小麦皮は無いています。



フルーツがたっぷり入っています。

クランベリー、パパイヤ、ぶどう、パイナップルなどのフルーツをふんだんに使うことによって、自然な甘さのナチュラルな仕上がりになりました。

*レーズンアーモンドの場合は

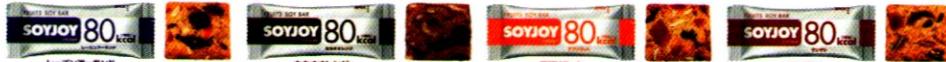


なぜ、80 kcalなの?

食事指導のときにも使われる、カロリーの単位80kcal(1本位)を1本にしました。カロリーをコントロールしたい方にとって、普段の食生活に取り入れやすい商品です。

80
kcal

4種類の味が楽しめる1パック12本入り(各3本入り)



FRUITS SOY BAR
SOYJOY
ソイジョイ

フルーツたっぷり、まるごと大豆バー。

大塚製薬 商品に関するお問い合わせ先: 大塚製薬お客様相談室 ☎ 0120-550708 <http://www.otsuka.co.jp/soy/>

*このページをそのままFAXしてください！

御注文書

お申込み方法・締め切り **11月30日(金)**

大塚製薬横浜支店 FAX 045-314-5326

1袋 12本入り 1,200円 × 2袋 → 1口 *税込み・送料込み

お名前		電話番号	
住所			
SOYJOY 80kcal	2袋 2,400円 ×	□ ⇒	円(税込・送料込み)

*商品はお申し込み日から1週間以内にお届けいたします。またお支払いは、商品到着後に配送業者にてお支払い下さい。

編集後記

今年の糖尿病週間行事のテーマは、「糖尿病の正しい知識と自己管理」です。今や玉石混交の状態で大量の医療情報が私たちの周りに溢れかえっています。こうした時代に求められることは、「情報の質」です。医療提供者は勘や経験だけでなく最新の臨床研究のデータを重視するようになり、市民の方々は正しい情報と誤った情報の見極めに注意を払うようになりました。

このたび多くの方々の献身によってこの「しんとう」が第100号を迎えることができたのは、本当に喜ばしいことです。今回は「しんとう」を創り、そして支えてきた方々からのご寄稿と、新たに産声をあげたばかりの神奈川糖尿病療養指導士認定機構のご紹介でしたが、いかがでしたか。これから「しんとう」は、糖尿病の情報を提供するだけではなく、「正しい知識」と「誤った知識」を見極める術（すべ）もお伝えしていきます。次の100号へ向けて、新しい企画も予定しています。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

川崎市立川崎病院 津村和大



大塚食品

お米と混ぜて
炊くだけ!

**糖尿病・肥満症などで
カロリー制限の
必要な方に**

マンナンヒカリごはんの特長

- 【低カロリー】普段と同じ量を食べても
カロリーは、白米・玄米の1/2。
- 【食物繊維】玄米の3倍、白米の16倍。
- 【かんたん】お米と混ぜて炊くだけ。

ごはんに比べて
カロリー
33~50%
カット

※カロリー50%配合にて
炊飯した場合。

厚生労働省許可
特別用途食品
低カロリー食

<http://www.mannanhikari.com/> ご相談・お問合せはお客様相談室まで TEL 03-3254-0700

自己検査用グルコース測定器 **グルテストシリーズ**
(小型血糖測定器)

グルテストEースR グルテストPRO R グルテストセンサー
グルテストセンサー グルテストNeo
グルテストNeoセンサー

採血用穿刺器具 **シェントレット**

もっと簡単、安全、便利に。

シェントレット シェントレット針

やさしさは変わりません。

ホームページ●
<http://www.skk-net.com/>

グルテスト情報サイト●
<http://www.gluetest.com/>

お問い合わせは

株式会社三和化学研究所
SKK
名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631

TEL 0120-078130

365日24時間お受けいたします